



## 『1人+5人のランナー』(5月17日)を振り返って・・・

島根県の出雲市で毎年開催される10kmのマラソン大会。ある日、市長室に一本の電話が入りました。「市長さん、私も今度のマラソン大会に参加したいのですが・・・」。市長が驚いたのは次の言葉。「私は全く目が見えないです。」「10kmも伴走できる人がいるのか」と困ってしまった市長でしたが、職員たちが出したアイディアは予想外のものでした。「5人が1人2kmずつ伴走する」。職員たちの必死の練習の甲斐あって、本番、目の見えない人は見事にゴールイン。出雲市のマラソン大会ではじめての全盲のランナーが誕生しました。この話から、改めて「協力」することの大切さについて考えることができましたね。来週には校外学習があります。一人でできないことも、みんなで力を合わせて成功させましょう！

〈みんなの感想より〉

- ちがう人同士でも、頑張ればみんなの心は一つになるということがわかりました。たとえどんなに困難なことでもこの世界は個性のある色々な人がいるから、達成できないことはありません。(女子)
- やっぱり人は一人ではやっていけなく、誰かの助けがないと誰でもダメなんだなと思いました。そして伴走してくれた人はとても親切だなと思いました。ぼくもこれからは困っている人がいたら、助けようと思いました。(男子)
- 私は今日の授業で協力することは大切だなと思いました。目が見えない人は一人では走れません。しかし10km走れなくても5人で2kmずつ走るという方法でみんなで協力しようと思うことはすごいと思いました。そして5人から完走してほしいという気持ちがすごく伝わりました。(女子)
- どんな人でもサポートや手助けをしてあげると何でもできるんだと思いました。これからどんな人に会うかわからないけれど、会った時には助けてあげようと思いました。(男子)
- 自分からサポートをするといった5人はとてもすごいと思います。走りながら声をかけるのはとてもしんどいこととわかっているながらも、目が見えない人のことを思って走ると言ったのは、すごいと思いました。(男子)
- 「三人寄れば文殊の知恵」という言葉がありますが、これにピッタリなことだなと思いました。そして、思いついたことを実行にうつすことができる職員の熱意や厚意もよく分かりました。人に支えられてマラソンを乗り切った目の見えない人の達成感や、普通なら無理と言われかねないことに挑戦する姿もカッコイイなと思いました。(女子)
- 私は目が見えない人と一緒に走ってくれた人も凄く優しい人だし、いい人だと思ったけれど、それ以上に目が見えない人の勇気や意志は素晴らしいものだと思った。もし私だったら人に迷惑をかけてまで走る勇気とか意志はないと思う。でもこれから私も、この目が見えない人のような勇気を持っていきたい。(女子)
- 障がいがある人とマラソンを走るのはとてもむずかしいことだけど一緒に走る人たちと目が見えない人との頑張りがあって10キロ走れたと思うので、僕もこれからある6月1日の校外学習や日常のなかでみんなで助け合えればいいなと思った。(男子)